

福祉教育常任委員会閉会中の調査報告

福祉教育常任委員会委員長 副田 悦子

- (1) 日時 令和7年5月9日(金) 午前9時30分～午後0時7分
- (2) 場所 東庁舎4階第4委員会室 湖南省学校給食センター
- (3) 出席者 副田悦子委員長、松原栄樹副委員長、森淳委員、川波忠臣委員、澤田厚委員、曾我部一帆委員
- (4) 説明員 教育長、教育部長、教育部次長、教育部管理監・図書館長、教育総務課長、教育総務課主幹、教育総務課主任主事、栄養教諭(県)
- (5) 案件
 - ① 湖南省立甲西図書館リニューアルについて
教育部より今年度着手する「湖南省立甲西図書館リニューアル基本構想」策定に向けて、現在の図書館の基本情報を踏まえ、課題や今後の取り組みについて説明の後、質疑があった。
Q：具体的な目標、理想とする姿は。
A：まず、図書館やその機能を知ってもらい、結果として貸出冊数なども県並にあがることを考えたい。
Q：タイトなスケジュールだがタウンミーティングで出てきた声が、委託される業者の提案する構想に活かされるのか。
A：タウンミーティングは、図書館だけでなく東庁舎周辺整備事業をテーマとして開催します。プロポーザルを委託する内容は、現状のとりまとめ、アンケート実施後報告書を作成し、基本構想案を出してもらいます。市民の方のワークショップもできれば依頼したいと考えています。
Q：図書館の交流、情報収集といった点についての取り組みはどうか。
A：司書は本と人をつなぐ役割があります。現在開催されているビブリオバトルなどを充実させながら、地域資料など地域の方とも繋がりながら進めていきたいと考えています。
Q：リニューアルの範囲は。
A：増築は考えておらず施設内の設備や隣接する樹木等も含めて考えています。
Q：蔵書について。
A：湖南省にとっての適正な数を協議していきます。
Q：湖南省立甲西図書館のリニューアルは蔵書の点も含め、石部図書館を含んだことなのか。
A：切り離して考えているわけではなく、意見を聞きながら並行して進めていきます。
Q：中津川などの視察で見てきたように、中高生が集まるようなたまり場を思い描いているのではないのか。
A：大変参考にしていきたいと考えていますし、職員アンケートなどからソフト面での意見も盛り込んでいきたいと考えます。

この問題はその後の小規模多機能自治センターでの図書館の機能についても関係することであり、単に甲西図書館だけの話ではないのではないのか。タウンミーティングの前

に事務職だけでなく、専門職も入れて、基本スタンス・コンセプトを明確にするべきだとの意見があった。

② 給食センターについて

湖南省の学校給食の概要について説明があった後、質疑があった。

Q：地元野菜の割合は。農家の方が仕入れの規格が厳しいとの声があるが。

A：令和5年度・6年度で8%です。

給食法に2時間以内で調理されたものを提供するなどの制約があり、規格も厳しくなっています。

Q：残飯の推移は。中学校が無償化になって増えていないか。

A：微増となっています。残量が多い物は献立の見直しを図っています。無償化の影響はないと考えています。

Q：幼少期からの体験が味覚の形成につながると聞きました。教育的文化的観点からの取り組みは。

A：市の教育方針や文科省の手引きに沿って、だし文化を大切にしたり郷土料理を紹介したりしています。また、しっかりかむ献立を盛り込み、朝食の重要性を伝えるなどしています。

Q：何度かあった配管工事のその後は。

A：現在不具合なく動いています。

その後、現地に行き、調理後の片付けの時間でしたが施設を見学し、給食をいただきました。薄味と聞いていましたが、しっかりおいしくいただきました。